

レボヘム™APTT-SLAの基礎的検討及び抗凝固薬に対する反応性の検討

◎奥菌 舞¹⁾、荒金 麻衣¹⁾、春名 希依子¹⁾、田路 夕海¹⁾、正木 裕美子¹⁾、松村 郁子¹⁾、豊田 利恵子¹⁾、野田 智恵子¹⁾
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター¹⁾

活性化部分トロンボプラスチン時間キット レボヘム™APTT-SLA（シスメックス株式会社：以下 Rev）は合成リン脂質とエラグ酸を原料とした測定試薬である。今回我々は、現行試薬であるトロンボチェック APTT-SLA（同社：以下 TC）を対照として基礎的検討と、抗凝固薬に対する反応性の比較検討を行ったので報告する。

【測定機器】全自動血液凝固装置 CN-6000（同社）

【方法】同時再現性、日差再現性、オンボード安定性、はコアグ QAP コントロール IX/IIX（同社）を用いて検討を行った。干渉物質の影響、現行試薬との相関性、各種抗凝固薬に対する反応性の比較検討（ワルファリン、エドキサバン、アピキサバン、ダビガトラン、リバーロキサバン（以下 Riva）、ヘパリン）では患者検体のべ 125 件と自家製 POOL 血漿を用いて検討を行った。

【結果】同時再現性は CV1%未満、日差再現性は CV3%未満、オンボード安定性は 4 日間で CV2%未満と良好であった。干渉物質の影響では、溶血ヘモグロビンは 480mg/dL、ビリルビン C は 20mg/dL、乳びは 1500FTU まで測定値に影響を与えず、

ビリルビン F のみ濃度依存的に測定値が延長する傾向を認めた。Rev と TC の相関性は回帰式 $y=0.9842X-0.3315$ 、相関係数 $r=0.9091$ で概ね良好であったが、一部に乖離を認めた。抗凝固薬に対する反応性は、Riva とヘパリンでは APTT 50 秒以上で TC に比べ延長したが、その他では概ね一致していた。

【まとめ】本試薬の基礎的性能は良好であった。干渉物質のうちビリルビン F に延長傾向が見られたが、これは干渉チェック・A プラスのロット固有の影響と考えられた。また、Riva とヘパリンの影響により Rev と TC とでは反応性が異なることが明らかとなった。よって本試薬を使用する際は事前に臨床側に注意喚起することが望ましい。

連絡先 06-6692-1201（内線 5242）